

宇部市文化振興まちづくり審議会 会議概要

日 時：令和3年(2021年)6月25日(金) 10:00～11:45

場 所：市役所 4階 第3・4会議室

出席者：委員8人(欠席2人)

事務局：安平観光・CP部長、安光観光・CP部次長

荒武文化・スポーツ振興課長、新原文化・スポーツ振興課副課長、
酒井文化振興係長、中島主任、片山主任

1 諮問

篠崎市長から福田審議会会長へ諮問書が手渡された。

2 議事

(1)「文化振興ビジョン(第二次)」の進捗状況について

文化振興ビジョンに規定された、各種事業の進捗状況について、事務局より説明。

(会長) 新型コロナウイルスの影響で、文化施設も休館が相次ぎ、また、三密を避けるため市民が外出を自粛して、例年参加していた文化行事などに行くことが少なくなったことは仕方ない。

その中でも文化事業を可能な範囲で続けてきたということは、文化に携わる関係者の大変な努力があったことと思う。

(会長) 次期文化振興ビジョンの各施策の数値目標を決めるということについて、何かご意見はありますか？

これまでどおりで良いのか、あるいは重点化していくという方向が良いのか、ご意見をいただきたいと思う。

(委員) 緊急事態宣言などで、不要不急の外出を控えるような状況で、文化施設が休館したり、席も間隔を空けて入れるため収容人数も減っているところで、参加人数だけを取組目標として考えると、現状の実態と違う方向で目標が設定されることになる。

参加人数だけを目標にすれば、イベントを無理に開催したり、何度も開催したり、ひいては、とにかく参加者を集めようとするようになる。悪く言えば、「集客することが目標」になる。

コロナ禍の中では、やはり市民の健康が第一だ。

コロナ禍でも可能なものを継続してやっていくと共に、ワクチンなどで状況がもし改善されることになれば、文化事業に帰って来てもらえるように、文化の灯を絶やさぬよう開催可能な事業を継続していくようになっていけばいいと思う。

(会長) 緊急事態宣言下などでは、一日中自宅で過ごしたりして、かえって文化に触れる機会も増えたのではないかと思う。

普段読まない本を読んだり、インターネットやDVDで映画を鑑賞したりする人も増えたのではないか

今は世界的にコロナ禍なので、次期ビジョンでは、目標数値にこだわらずに、文化施策を続けていくことを考えていきたい。

(委員) 宇部市は目標指標が、再掲も含めると92項目もある。

これだけ多いと、目標を追うのが仕事にならないかと危惧することもある。県の文化芸術振興プランは数値目標が3つと聞いた。

県や他市を参考に、必要不可欠な目標に絞れば良いのではないだろうか。

(委員) 市立小中学校は、コロナ禍であっても子どもたちの教育は通常の授業はもちろんのこと、色々な体験、学び、文化芸術に触れる機会も存分に活用するようにしている。

昨年の12月からコロナ対策のガイドラインも出て、市長部局の支援、人員の効果的配置、また各教員の従来の何倍もの手間・時間のかかる授業の事前準備などを経て、コロナ禍であってもなんとか例年どおりの教育を行うことができた。

実行性がある次期ビジョンを考えたとき、コロナのような危機があったときにも対応できるような文化・芸術に触れることができるような仕組みができればいいなと思う。

タブレットを活用し、リモート、デジタルをつかったバーチャル

で文化に触れ、危機が収束したら実体験へ結びつくようになればと思う。

(2)「文化振興ビジョン(第三次)」版への改定の方向性について

計画期間、改訂の内容、スケジュールについて、事務局より説明。

(事務局) 資料に基づき説明

(会長) 改定の方向性ということで、まず最初に文化芸術の定義を他市の例を参考に示されている。

これをどこまでとらえるかということが難しいところではある。

非常に高尚なものだけを取り扱う場合と、それから限界芸術論という身近にあるもので、文化の範囲や裾野を広げて考える方法もある。

わたしの個人的な考えだが、芸術というのは元気が出たり、幸せになったり、癒されたりすることが、なんらかの形で表現されたり、伝わってくるものと思う。

それから、文化芸術活動を行った市民の割合や鑑賞した割合を多くすることは大変大事なことで、調査を定期的にしてもらいたい。

事務局に確認ですが、これまでどおり、この目標数値はアンケートでとられていますね？

(事務局) 毎年市民アンケートを行って数値を計測している。

(会長) これも捉え方で、家で映画を見るのも鑑賞と捉えるのか、たぶんこれは個人差が出てくる。正確なところはなかなか難しい。文化に対してどのように思っているのか、個人によって違う部分がある。

数字を出していくことも意味はあるだろうし、宇部市民が文化に接して、自分の中に取り組んでいってくれて、幸せを感じたり、喜びや生きがいになって癒されたり、子どもたちは教育をとおして文化に触れていって、人生豊かになっていくというのが大きな目標だと思う。

方向性としては、二次も三次も変わらないとは思いますが、具体的に

言葉をどうするかということもある。

ビジョンのテーマを3つに分けるのは大変で、1次、2次の策定作業で、「アート」や「にぎわい」など、また、子どもたちの教育のことを考えて「未来」という概念を考え3つに分けた。

言葉が多少変わっていくかもしれないが、皆様方に審議いただきたい。

ご意見はありますか？

(委員) 皆様のお手元に、文化芸術基本法を持ってきた。

これは2001年に制定された文化芸術振興基本法が、2017年6月に一部改訂されたもの。

この中にも、文化芸術の三つの価値というのが言われており、人間が人間らしく生きるための糧、生きる力生きる喜びである本来的価値。

人と人を結びつけ、相互理解や相手を尊敬しあう社会的価値。

そして文化芸術を活用して地域経済の活性化を図るといわれる経済的価値があるとのこと。

やはり市の条例があったとしても、具体的に実践していくためには、この文化振興ビジョンがあると、みなさんが向かっていく良い指針になるものだと思う。

文化芸術の定義を明確にしていくことで、目的、ミッションに向かって、その事業を推進していくということではないかと思えます。

ただ、文化と芸術というのは、似て非なるもので、書物によると、文化が土壌であって、そこで出てきたものが芸術。そういう関係というところもあるので、ビジョンの中で芸術を具体的にどう捉えるかとか、生活文化をどう定義していくかとか、明確化することで、各実践事業を推進していきやすくなるのかなと思えます。

(会長) 芸術となると異なるのもあるが、アートなので、好きか嫌いかということで様々なものが対象となり範囲も広く考えられる。

他に、全体的な流れ、方向性をどうするかということでご意見ございませんか？

(委員) 毎年、市が実施している市民アンケートだが、会長が話されたように、本当に意見を持っておられる市民の意見まで汲み上げられているかが、なかなか難しい。

前回審議会の ZOOM 会議の時もお伝えしたが、文化創造財団の事業ごとに参加者に、今までは紙でアンケートを書いてもらっていたが、コロナ感染防止の観点からウェブ上で回答できる方法を導入した。

この 1 年間行ってきたが、なかなか回収率が上がらない。今までは 30% くらいあって、数字的にも信憑性があると思っていたが、ウェブになると 10% とかなり低くなってきている。

「クラシックに過去 3 年間来場されましたか？」という設問で鑑賞者のパーセンテージを測っていたので、回収率が 10% となると、全体から見て適正なパーセンテージが割り出せるのかどうか不安なところがある。

自由記載の意見などは、伺えても、全体傾向はある程度の母数がないと信頼性がない。

これまで以上にアンケートは工夫がいるかなと思った。

(会長) そうですね。難しいところですね。

アンケートの回収率を上げるためには、方法や対象者、設問など工夫を凝らさないと効果的でないところはある。

他にございませんか？

(委員) ビジョンのテーマの三つ目の「未来に向かうまち」というのが、教育とかそういったことを考えているというように思うのだが、そうすると社会学でいう文化資本というか、文化に触れて、文化を自分の中の資本として持っているという状態を達成していくというのが目的なのかなと受け取った。

例えば、貧しい状態で生まれて、あまり恵まれない状態でも文化資本があれば、経済的に成功することもできるという研究もあったりする。

そうすると癒しとか優しい意味合いは薄れてくるのですが、ある

意味現実的な面では、非常にいいことなんじゃないかなと思う。

(会長) ありがとうございました。

 全体的な話をしようと思います。スケジュールですが、11月の終わりには方針を出したいので、8月、10月に内容を詰めていってという予定にしております。どうぞよろしくをお願いします。

 事務局に確認ですが、ほとんどの地方自治体は策定していますか？

(事務局) 策定はこれからという状況です。

 山口県内では、最大都市の下関市も策定していません。本市と岩国市、山口市、山陽小野田市のみ策定しています。

 しかし、先ほどの文化芸術基本法の中で、初めて、自治体に「策定の努力義務」が規定されましたので、これから少しずつ増えていくと思います。

(会長) 街が発展するのには、経済と文化とが並行して発展していくのだろうと思う。それと日本は、伝統文化を多く持っているようなことはある。そこを大事にしなきゃいけないだろう。

 以前、韓国の先生が大学に来られた時に、日本は江戸時代に藩体制で約300の藩があった。その藩ごとに多様な文化が生まれた。だから例をいうと「焼物」にしても非常に多くの種類がある。

 そのように言われて、日本は藩体制の小さな「国」が各地にあったということを非常に賞賛しておられた。

(委員) 最近、市内の文化財をお持ちの方に伺う機会があり、「宇部市は彫刻に予算と人材を投入し過ぎできないか？

 他の文化事業や文化財にも、もっと力を入れてもらいたい。彫刻とその他のバランスが取れていない。

 特に文化財については「取り組みが弱い」ということをストレートに突き刺さるような感じで言われた。

率直なご意見だが、一生懸命やっていたら市民の中の温度差、ここまで言われてしまうと、アート、彫刻のことを今までやってきたことはなんだったんだろうかと正直あり、文化は時間もかかるし、お金もかかるし、長期的な視野視点で見ていくものだと思うが、なかなか難しいということを経験で痛感した。

アートのまちということで、彫刻が一つのメインですので、彫刻を身近なものとして若い世代にどう伝えて継承していくのか、その辺の難しさを考えさせられた。

(委員) 今言われたことと重なりますが、彫刻のことに関して、すごく力を入れていらっしゃる市民、思いを持っておられる市民と、全然彫刻に関心がない、彫刻は不要と考えている市民の温度差が大変大きい。

私の家はときわ公園のすぐ前なので、ずっと彫刻、ときわ公園の様子を見ているが、それはたまたま私がときわ公園のとなりに住んでいるからそういう状況です。

たぶん文化とか芸術とか肌で感じて育っていくものじゃないかなと個人的に思っている。

なので、彫刻が身近にない市民にはなかなか彫刻に親しむことや設置の歴史的背景などを知ることもないかも知れない。

ところで、私は今、児童図書館を運営している。子どもたちは本を借りて帰るということよりも、図書館に来て、本に囲まれて読むのが好きだ。

小さな家だが、そこがほとんど図書館になっており、おもちゃも置いていない。

でも、子どもたちって、そういう中に身を投じることが好きで、小さいころから肌で感じて大きくなっていくのが人だし、文化芸術の吸収の仕方じゃないかと思う。

(委員) 2年前から能のお稽古をはじめ、その先生が東京から月に1回教えに来る。来られる先生もコロナを気にしながらマスクを3枚ぐらいしてお稽古をつけてくださる。

小学生のために能の基礎の形をつくってくださって小学校で特別授業もされている。

能ってものを知らない方のほうが多いのかと思うので、宇部市の子どもたちにも能を知ってもらいたい。

(会長) 日本は文化の種類が多い。メニューが多すぎて選べないというのもある。

自分が受け入れるチャンスがないとありがたいものでもなかなか身に沁みこんでこない。

社会教育も含めて生涯教育として文化が学ぶチャンスがあれば良いと思う。

それでは、みなさん一生懸命考えていただいて、次の8月の会議にはたくさん意見をもらいたい。また思いついたようなことがありましたら、事務局あてにご意見を出していただいて、この会議を充実させていきたいなと思っている。

今日はここまでにしたいと思います。